

第93回 品質管理シンポジウム

日時：2011年12月1日(木)～3日(土)

会場：箱根ホテル小涌園

主催：財団法人日本科学技術連盟

後援：日本経済新聞社，社団法人自動車部品工業会，社団法人日本品質管理学会

※後援団体には現在依頼中

微妙なバランスが要求される， 変化とスピードの時代 —ローカルに学び，グローバルに考えて行動—



特別講演 1

「“See more while looking within
— AIS’s Case study”」

Arvind Singh 氏
Asahi India Glass Limited President



講演 1

「グローバル企業の戦略，
組織，マネジメント」

一條 和生 氏
一橋大学大学院 国際企業戦略 研究科 教授



特別講演 2

「人間の父性と
コミュニケーションの進化
—ゴリラの社会から考える—」

山極 寿一 氏
京都大学大学院 理学研究科 教授



講演 2

「技術の極限追求と事業化
—コモンルール開発—」

宮木 正彦 氏
(株)デンソー 専務取締役



基調講演

「微妙なバランスが要求される，
変化とスピードの時代
—ローカルに学び，
グローバルに考えて行動—」

宮村 鐵夫 氏
中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授



講演 3

「グローバルに考え
グローバルに行動する
—重工業の挑戦—」

児玉 敏雄 氏
三菱重工業(株) 執行役員 技術統括本部 副本部長

最新情報はこちらをクリック!!

第93回 品質管理シンポジウム

検索

第93回 品質管理シンポジウム 講演概要

12/1(木) 特別講演 1

「“See more while looking within – AIS’s Case study”」 Arvind Singh 氏 Asahi India Glass Limited President



AIS旭インディア硝子は1987年に創業し、現在はインド最大の複合硝子メーカーである。インドLabroo家と旭硝子株式会社の共同事業で、両者が同数の株式を保有し、インドで最も成功している日印共同事業の1つである。AISはスズキの自動車用ガラスのサプライヤーとしてスタートしたが、建設業界にも製品群を投入する傍ら、急速に拡大するインド自動車産業のすべての主要メーカーに供給し、市場占有率ほぼ80%を占める企業にまで成長した。両事業におけるバリューチェーンの観点からも、AISは製造、OEM供給、流通、リテール販売から取り付けに至るまで、まさに製造から最終顧客まで関与している。AISのマネジメント哲学の礎はTQMの実践にあり、組織文化の奥深くまで浸透している。戦略的な観点からは、“See More”(よく見る)と“Look Within”(内面を見る)の原則に基づいている。“See More”とは、単にガラスという我々の製品を表現するためのものではなく、従業員がもっと見て、学んで、行うために、我々の価値文化や透明性、そして資質を表現している。“Look Within”は、常に改善を求め、組織内の業務を継続して評価する思想によって動かされている。これら2つの戦略が、会社を現在の地位まで押し上げた。この発表では、この道のりを詳しく紹介する。

12/3(土) 特別講演 2

「人間の父性とコミュニケーションの進化 –ゴリラの社会から考える–」 山極 寿一 氏 京都大学大学院 理学研究科 教授



人間はゴリラやチンパンジーなど近縁な類人猿に比べて、授乳期間が短く、青年期と老年期が長いという特徴を持っている。これは、人類の祖先が豊かで安全な熱帯雨林から草原へ進出するにしたがい、強靱な社会を築いた進化史を反映している。それには食と性のコミュニケーションを大幅に改編する必要があった。現代は、その時代に確立された感性がコミュニケーション革命によって大きく揺さぶられる時代である。その実態を進化の視点からとらえ、現代の問題点を明らかにする。

12/2(金) 基調講演

「微妙なバランスが要求される、変化とスピードの時代 –ローカルに学び、グローバルに考えて行動–」 宮村 鐵夫 氏 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授



「スキームを明確にした新製品開発」の視点から、グローバル化とローカル化などを調和しながら進める持続的成長のあり方について述べる。開発・生産技術・ロジスティックなど様々な技術・情報を組み合わせ・統合して、経営資源やインフラなどの「制約条件」へ効率的かつ効果的に対応するスキームとマネジメント、俯瞰的視野で多面的な思考により「微妙なバランス」を取ることが要点になる。「環境変化によるパラダイムシフト」と「新しい5S」に基づき、継続的な改善・改革の進め方についても所見を述べる。

12/2(金) 講演 1

「グローバル企業の戦略、組織、マネジメント」 一條 和生 氏 一橋大学大学院 国際企業戦略 研究科 教授



グローバルに事業を伸ばす戦略、組織、マネジメントを、IBM、ネスレ、GEの最新事例と理論的フレームワークと共に提示する。とりわけ事業のグローバルな成長にとって重要な、グローバル統合とローカル適応という力をどのようにうまくバランスさせるかについて、深く検討する。

12/2(金) 講演 2

「技術の極限追求と事業化 –コモンレール開発–」 宮木 正彦 氏 (株)デンソー 専務取締役



ディーゼル機関はその経済性や高トルク等から特に商用車分野では不可欠な物だが、'80年代には黒煙や排ガスの克服が大難関であった。一方当社は燃料噴射ポンプ事業では後発弱小で常に苦戦を強いられてきた。この局面打開の為に我々は従来の噴射ポンプとは全く異なる新方式コモンレールシステムを開発し、技術・事業の課題解決を果たしてきたが、それは同時に常時数千気圧に耐える超精密製品を成立させる戦いでもあった。本講では事例も交えてその取り組みの一端を紹介する。

12/2(金) 講演 3

「グローバルに考えグローバルに行動する –重工業の挑戦–」 児玉 敏雄 氏 三菱重工業(株) 執行役員 技術統括本部 副本部長



国内外のハイエンド市場、新興国のボリュームゾーン市場で勝つためには、明確な経営戦略のもと、バリューチェーン全体の標準化・共通化・IT化を進めて生産性を向上させることが必須である。多種少量生産の重工業製品の場合、設計段階での完成度がポイントであり、品質・コストの80%は設計段階で決まると言っても過言ではない。設計の完成度を高めるための、標準化・共通化・システム化について紹介するとともに、ものづくり全体の視点で行動できるプロフェッショナルな人材育成教育について述べる。

品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしました。

しかしながら、最近の食品、宇宙開発、原子力、運輸、医療などの安全性を重視する分野や巨大技術分野で、記録的に大きな事故が発生しています。日本の強さであった品質や技術力にも陰りが見られることも見逃せません。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されると同時に、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第92回
中村ブレイス 社長
中村 俊郎 氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三 氏



第90回
山本化学工業 社長
山本 富造 氏



第89回
新日本製鐵 代表取締役会長
三村 明夫 氏



第89回
日本マクセル 会長兼社長兼CEO
原田 泳幸 氏



第88回
小松製作所 代表取締役会長
坂根 正弘 氏



第88回
日本IBM 会長
大歳 卓麻 氏



第87回
花王 前会長
後藤 卓也 氏



第87回
テルモ 代表取締役会長
和知 孝 氏



第86回
経済同友会 代表幹事
桜井 正光 氏



第85回
サムスン電子 副会長
Y. W. Lee 氏



第84回
同志社大学 客員研究員
ロバート E コール 氏



第83回
経団連 名誉会長
奥田 碩 氏



第82回
東海大学 教授
山下 泰裕 氏

品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2011年7月20日現在

- | | | | | |
|-------------------|---------------------|----------------|-----------------|------------------|
| 1 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 13 コニカミノルタ | 23 清水建設(株) | 36 日華化学(株) | 49 前田建設工業(株) |
| 2 アイシン精機(株) | ビジネステクノロジー(株) | 24 JUKI(株) | 37 (株)日科技連出版社 | 50 (株)前田製作所 |
| 3 (株)アドヴィックス | 14 コニカミノルタ | 25 積水化学工業(株) | 38 日産自動車(株) | 51 三島食品(株) |
| 4 (株)IHI | ホールディングス(株) | 26 ダイヤモンド電機(株) | 39 日産車体(株) | 52 (株)村田製作所 |
| 5 NECトーキン(株) | 15 (株)小松製作所 | 27 (株)竹中工務店 | 40 日本電気(株) | 53 (株)メイドー |
| 6 大塚化学(株) | 16 サンデン(株) | 28 (株)千代田グラビヤ | 41 (株)日本科学技術研修所 | 54 名北工業(株) |
| 7 オムロン(株) | 17 サンデンシステム | 29 (株)デンソー | 42 (株)羽生田製作所 | 55 (株)安川電機 |
| 8 鹿島建設(株) | エンジニアリング(株) | 30 東海ゴム工業(株) | 43 パナソニック(株) | 56 ヤマハリビングテック(株) |
| 9 関西電力(株) | 18 サンデン物流(株) | 31 東北リコー(株) | 44 日野自動車(株) | 57 (株)ユニバース |
| 10 キヤノン電子(株) | 19 サンワテック(株) | 32 トヨタ自動車(株) | 45 富士ゼロックス(株) | 58 (株)リコー |
| 11 (株)ケイ・シー・シー | 20 (株)ジーシー | 33 (株)豊田自動織機 | 46 富士電機(株) | 59 リコーエレメックス(株) |
| 12 コーセル(株) | 21 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 34 長津工業(株) | 47 フジミ工研(株) | 60 リコーロジスティクス(株) |
| | 22 (株)ジェイテクト | 35 ナゴヤダクロ(株) | 48 ペンてる(株) | |

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1**▶▶▶ 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2**▶▶▶ 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3**▶▶▶ 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4**▶▶▶ 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5**▶▶▶ 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6**▶▶▶ 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りませんので不定期です）

入会費用 1口につき年額182,700円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと **1名様参加枠（無料）**を確保できます。
2名様から特別価格（42,000円）でご参加いただけます。

問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（茂田／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

趣旨



宮村 鐵夫 氏
中央大学 理工学部
経営システム工学科 教授
第93回品質管理シンポジウム
担当組織委員

現在の事業環境は一言でいえば、「変化とスピードの時代」であり、持続的な成長には、「微妙なバランス」を取りながら、サプライチェーン、グローバル生産体制など価値連鎖の配置 (configuration) とコーディネーションの進め方について、継続的に改善・改革を進める経営の舵取りが欠かせないのではないのでしょうか。

「微妙なバランス」では、自らは直接コントロールできない「制約条件への認識」が重要であるように思います。航空機、自動車や食品などの産業構造によって、新製品開発のリードタイムや開発コスト回収に要する時間、ロジスティクスは異なり、ビジネスモデルやグローバル化における価値連鎖の配置も変わります。先進国や新興国などの地域、文化、市場、エネルギーやファイナンスなどのインフラによっても異なります。

制約条件について共通的なところとそうでないところ

を見極め、ビジョンを実現するスキームの明確化、マスカスタマイゼーション、共通化などの考え方を取り入れることで、効率的で効果的に対応するマネジメントが可能となります。また、新製品開発など付加価値の向上を追求する「不連続の連続」を推進すれば、変化の転換点でも新たな軌道へ先取りして移ることが可能になります。さらに、部門と部門の間に関わることが部門の隙間に忘れ去られないように、スピードの変化に対応できる「コーディネーションとモチベーションの仕組みと運用」が大切になります。

今回のシンポジウムでは、これらについて、講演と質疑応答、グループ討論を通して、認識と理解を進め、皆様の今後の活動・取り組みへ活用していただきたいと考えています。つきましては、幅広い産業分野に渡る企業と企画、開発、生産、営業などいろいろな部門の方々の参加をお願いしますとともに、有意義なシンポジウムになることを期待しています。

本シンポジウムの の特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム		開催期日：2011年12月1日(木)～3日(土) 会場：箱根ホテル小涌園	
月日	時間	科目	講演者
12/1 (木)	19:30~21:00	<特別講演1> 「See more while looking within - AIS's Case study」	Arvind Singh 氏 Asahi India Glass Limited President
	21:00~21:20	質疑・応答	
	21:20~22:00	グループ討論メンバー自己紹介 (若葉他会議室)	
	22:00~23:00	談話室 (富士の間, 参加自由)	
12/2 (金)	8:30~8:40	主催者挨拶	(財)日本科学技術連盟 役員
	8:40~9:30	<基調講演> 「微妙なバランスが要求される, 変化とスピードの時代 -ローカルに学び, グローバルに考えて行動-」	宮村 鐵夫 氏 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授 ※93QCS担当組織委員
	9:30~10:50	<講演1> 「グローバル企業の戦略, 組織, マネジメント」	一條 和生 氏 一橋大学大学院 国際企業戦略 研究科 教授
	10:50~11:00	質疑・応答	
	11:00~11:15	休憩	
	11:15~12:15	<講演2> 「技術の極限追求と事業化 -コモンレール開発-」	宮木 正彦 氏 (株)デンソー 専務取締役
	12:15~12:30	質疑・応答	
	12:30~13:15	昼食・休憩	
	13:15~14:15	<講演3> 「グローバルに考えグローバルに行動する -重工業の挑戦-」	児玉 敏雄 氏 三菱重工業(株) 執行役員 技術統括本部 副本部長
	14:15~14:25	質疑・応答	
	14:25~14:40	グループ討論の主旨説明	宮村 鐵夫 氏 担当組織委員
	14:40~17:50	グループ討論 (1)	
	18:00~19:00	夕食 (立食)	
19:10~21:00	グループ討論 (2)		
21:00~23:00	談話室 (富士の間, 参加自由)		
12/3 (土)	8:30~9:20	<特別講演2> 「人間の父性とコミュニケーションの進化 -ゴリラの社会から考える-」	山極 寿一 氏 京都大学大学院 理学研究科 教授
	9:20~9:30	質疑・応答	
	9:30~10:40	グループ討論報告 (10分×6班※予備10分)	
	10:40~10:55	休憩	
	10:55~11:30	総合討論	司会:宮村 鐵夫 氏 報告:各班リーダー(討論)
	11:30~11:40	第93回 品質管理シンポジウム まとめ	宮村 鐵夫 氏 担当組織委員
	11:40~11:50	次回 (94回) 品質管理シンポジウム案内	大久保 尚武 氏 積水化学工業(株) 取締役相談役 ※94QCS担当組織委員
11:50~	昼食・解散		

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順, 敬称略) ※◎は第93回品質管理シンポジウム主担当組織委員



飯塚 悦功
東京大学大学院
特任教授



岩崎 日出男
近畿大学 教授



大久保 尚武
積水化学工業(株)
取締役相談役



酒巻 久
キャノン電子(株)
代表取締役社長



◎**宮村 鐵夫**
中央大学 教授



山内 康仁
アイシン精機(株)
相談役

グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

技術の事業化と不連続の連続による持続的成長

■リーダー：久保田 洋志 (広島工業大学 工学部 知的情報システム工学科 教授) ■世話人：藤本 高宏 (㈱デンソー 品質管理部 TQM推進室 室長)

趣旨

企業が国内の成熟市場と新興国の成長市場とで持続的成長を実現するには、各市場での顧客満足と新技術・新製品開発による付加価値向上、及び革新的製品・サービスを次々に提供し続けられる不連続の連続を成し得る必要がある。不連続の連続について、参加企業の課題を確認し、先進事例と成功事例を踏まえて、マーケティング、技術・製品開発、組織・人・マネジメントの面からの成功要件を討論し、具体的な取り組みの方向を提言する。

論点

- ① 技術の事業化と不連続の連続に対する企業の状況と課題
- ② 技術事業化と不連続の連続を成し得るための必要条件
- ③ 成功事例に学ぶ必要要件に対する具体的な取り組み

第2班

製品ライフサイクルマネジメントにおける部門間連携

■リーダー：飛田 甲次郎 (ゴールドラットコンサルティング プロジェクトディレクター) ■世話人：今野 勤 (神戸学院大学 経営学部 教授)

趣旨

変化とスピードの時代において、持続的な成長を実現するために、どのように組織連携を図るのかを議論する。現実の組織は企業の置かれている市場や、今日に至る企業の成長過程で育まれてきた文化・風土により、様々な形態を採っている。しかしながら、様々な組織であっても、組織連携を阻む要因は共通的でそれほど多くなく、「組織間のアクションの対立」と「責任と権限のギャップ」と「変化への抵抗」ではないだろうか。第2班では、何を、何に、どのように変えていくのかを、製品ライフサイクルマネジメントをケースに議論する。

論点

- 製品ライフサイクルマネジメントをケースとして、
- ① 何を (どのような問題があるのだろうか?)
 - ② 何に (どのようなありたい姿があるのだろうか?)
 - ③ どのように変えるのか (何か標準的な考えはないのだろうか?)

第3班

マスカスタマイゼーションに対応できるフレキシブルな標準化の進め方

■リーダー：高橋 勝彦 (広島大学 大学院工学研究科 教授) ■世話人：高木 美作恵 (シャープ(株) CS推進本部 推進戦略室 参事)

趣旨

変化とスピードの時代に持続的成長を図る進め方の一つとしてマスカスタマイゼーションが考えられる。マーケットシェアと同時にカスタマーシェアを高めるマスカスタマイゼーションの実現には、製品戦略における市場形成と顧客対応、部品構成における部品共通化、組織構成における水平・垂直統合などの標準化と柔軟性の微妙なバランスが求められる。そこで、マスカスタマイゼーションの現状や課題、あるべき姿と実現方策について議論したい。

論点

- ① マスカスタマイゼーションによる持続的成長のありべき姿
- ② マスカスタマイゼーションの現状と課題
- ③ マスカスタマイゼーション実現のための方策

第4班

グローバル化における地域密着型のマーケティング

■リーダー：荒木 孝治 (関西大学 商学部 教授) ■世話人：岡原 邦明 (パナソニック(株) 技術品質本部 本部長 役員)

趣旨

ドラッカーは、その著書において、企業の目的は「顧客の創造」であり、そのための基本機能は、「イノベーションとマーケティング」であるとしました。本グループでは、企業の基本機能であるマーケティングにおける地域密着型活動に焦点をあて、議論していきます。このとき、1961年から1963年にかけて689コンビ (永六輔, 中村八大, 坂本九) が「上を向いて歩こう」から生み出した音楽界における空前のイノベーションである「SUKIYAKI」が重要な事例として浮かび上がってきます。この曲は、戦後の復興、および震災後の復興や希望の象徴として繰り返し愛唱されてきました。

論点

- ① プレイするピッチはどこか
- ② コミュニケーションをどう図るか
- ③ グローバル最適化は、顧客のためか

第5班

グローバル化における組織のコーディネーションとモチベーションのあり方

■リーダー：松田 啓寿 (財日本科学技術連盟 嘱託) ■世話人：高橋 義明 (富士ゼロックス(株) 品質本部長 品質保証部長 執行役員)

趣旨

昨今の状況下、進展する国際的な分業and/or専門化に伴って、・部分最適 (視野狭窄) ・経営自由度の低下=意欲低下といった懸念が生じている。グローバルベースで観察されるこれらの現象に対しては、異文化間でのコーディネーション問題とモチベーションの問題として解決を図る必要がある。グローバルに専門化された機能をコーディネートし、社員のモチベーションを維持向上させるためには、ヒューマンアспектをどのように扱うか? 現状の課題と、更にはその克服のための提言について議論したい。

論点

- ① 経営層の国際化が進まない日本企業の将来は? 日本企業らしいグローバル化とは 欧米的価値観 vs 日本的価値観
- ② 現地法人社員と現地法人トップ (概して日本人)、現地オペレーションと本社のコミュニケーション問題
- ③ 現地法人社員の登用はどこまでか? 企画や開発機能はどこまで現地化するべきなのか?

第6班

アウトソーシングとローカライゼーションにおけるリスクマネジメント

■リーダー：田中 健次 (電気通信大学 大学院情報システム学研究科 社会知能情報学専攻 教授) ■世話人：家氏 信康 (コニカミノルタビジネステクノロジー(株) 生産本部長 常務取締役)

趣旨

変化とスピードに負けないために、OEMなどのアウトソーシングが実施されているが、国外へのアウトソーシングにはリスクが付きまとう。国内でのそれらのリスクとの違いを質・量の両面から比較し、効果的な対応方法を考えたい。国外の現地環境に精通したコーディネータの地元雇用も、人のアウトソーシングであり、現地採用に伴うリスクと対策も議論したい。

論点

- ① アウトソーシングにおけるリスクは何か。そしてそのリスクの大きさは? それは国内と国外とでどのように異なるのか。さらには国による違いはあるのか。
- ② 現地環境に適合するためのローカライゼーションにおけるリスクは何か。
- ③ 上記のリスクを回避するための効果的な手法・手段を考える。

参加要領

開催日時

2011年12月1日(木) 19:30~12月3日(土) 12:00
(12月1日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

申込方法

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、郵送・FAXで下記宛申し込みください。第1次ペ切を10月14日(金)とさせていただきます。
(財)日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp

参加対象

企業の役員、上級管理職の方々

参加費

- 一般 105,000円/1名(消費税込み)
- 本シンポジウム賛助会員会社 1名無料, 2人目から42,000円/1名(消費税込み)
- ※食事代(12月1日夕, 12月2日3食, 12月3日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。
- ※JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)をいたします。

第93回 品質管理シンポジウム 参加申込書

※太い野線内は必ずご記入ください。(参加者名簿は下記内容をもとに作成しますので正確にご記入ください。)

ふりがな 参加者名		会社名	
所属		役職	
所在地	〒		
E-mail			

※GDの事前討論のためにメーリングリストを設置いたしますので、大文字、小文字、-(ハイフン)、_(アンダーバー)などの区別を明確にご記入ください。

●希望するGD班に○をつけてください。

※第2希望も必ずご記入ください。ご記入がない場合、ご希望のGD班に編成されない可能性があります。

第1希望	・ 1 班	・ 2 班	・ 3 班	・ 4 班	・ 5 班	・ 6 班
第2希望	・ 1 班	・ 2 班	・ 3 班	・ 4 班	・ 5 班	・ 6 班

●開催期間中のご予定(下記の全ての事項にご記入ください)

部屋	<input type="checkbox"/> シングル希望(32,000円/2泊(消費税・サ込)) <input type="checkbox"/> 2人部屋でよい(18,000円/2泊(消費税・サ込))		※いずれかに印がない場合は、事務局で決めさせていただきます。				
喫煙	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない						
食事	12月1日(木)	<input type="text"/> 時頃ホテルに到着の予定				夕食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	12月2日(金)	朝食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	昼食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	夕食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	12月3日(土)	朝食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	昼食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要		

●連絡担当者(お申込受付後「関係資料」をお送りする方)

会社名		事業所名		TEL	
担当部課・役職名		担当者名		FAX	
所在地	〒				
参加費	一般:	105,000円(消費税込) / 1名 ×	名 =		円
	シンポジウム 賛助会員会社:	1名無料, 2人目から42,000円(消費税込) / 1名 ×	名 =		円

※1社での参加が2名以上の場合は、お手数ですが当紙をコピーしてご記入ください。
 ※参加申込書を電子データでご希望の方は、品質管理シンポジウム担当までご連絡ください。
 ※シンポジウム賛助会員は、日科技連賛助会員とは異なりますのでご注意ください。

(財)日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当 行 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp